

| | |
|-------|---|
| 研究課題名 | Zone1・2 屈筋腱断裂の治療成績 ～6-strand suture 後の早期他動屈曲療法と 8-strand suture 後の早期自動屈曲療法の比較～ |
| 実施責任者 | 所属・職名：リハビリテーション科・作業療法士 氏名：稲垣慶之 |
| 研究の概要 | <p>手指屈筋腱断裂の術後リハビリテーションは Kleinert にはじまる早期他動屈曲療法が普及してきましたが、近年は腱縫合法の工夫に伴いより良好な機能回復を導く自動屈曲療法も一部では導入されています。断裂した腱の断端同士に 6 本の糸を通す 6-strand suture は力学的には早期自動屈曲療法が可能とされていますが、文献によると平均で約 5%程度の再断裂を生じるとされます。我々は再断裂発生率を少しでも低下することを目的に考案された core suture を 8-strand とする縫合法と当院独自の早期自動屈曲療法を組み合わせた治療を行ってきました。本研究の目的は、その治療成績を従来の 6-strand suture に Kleinert 変法を組み合わせた治療の成績と比較し、有効性を検討することです。</p> |
| 実施の期間 | 西暦 2008 年 1 月 1 日まで 西暦 2018 年 8 月 31 日まで |
| 研究対象 | 整形外科にて 6-strand および 8-strand suture にて腱縫合術を行い、術後に Kleinert 変法・早期自動屈曲療法を行った患者が対象となります。 |